

学生フォーミュラ 9月、エコパで開催 県内3チーム 意気込み



走行性能や外観競う

学生自らが設計、製作したレーシングマシンの性能を競う第15回全日本学生フォーミュラ大会(自動車技術会主催)に出場する静岡理工科大、静岡大、静岡工科自動車大学の県内3チームが6日、県庁で会見し、大会への意気込みを語った。(政治部・風間ほえみ)

大会は9月5〜9日、袋井市のエコパで開催され、国内外の98チームが出場する。ガソリンエンジン車(ICV)と電気自動車(EV)の2部門があり、車両のデザインや学生のプレゼンテーション能力などを採点する「静的審査」や、実際に走行して加速性能や耐久性などを確かめる「動的審査」に挑む。両部門に出場する静岡理工科大の学生は、ICV、

EVとも動的審査を意識し、開発9年目となるEVは「今年こそ全種目で完走したい」と語った。

メンバー51人の大所帯でICV開発に取り組む静岡大は「全種目完走と総合17位」を目標に掲げ、前年度に比べ車両重量を60kg削減にこぎつけた成果を披露した。

忙しい授業の合間を縫って12人で参戦する静岡工科自動車大学校は「前回は規定タイムに届かなかった。今年は30位以内を目指す」と話した。

レーシングマシンを囲み、意気込む学生 6日午後、県庁